

～文化的施設を想像する1日～

文化的施設

四万十駄場フェス

2022.

11.12 **土** 10:00-15:00

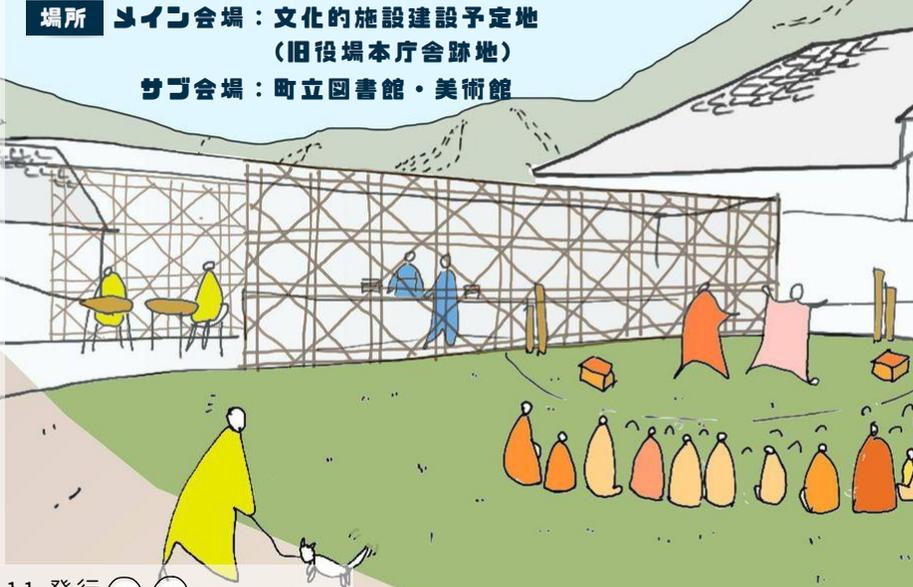
場所 **メイン会場**：文化的施設建設予定地
(旧役場本庁舎跡地)

サブ会場：町立図書館・美術館

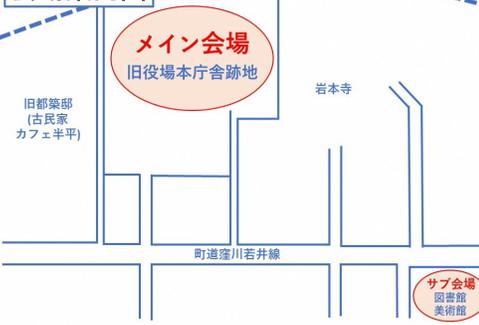
／台地まつりと同日開催！

四万十町の新しい文化的施設

まちの文化が流れ、人にひらかれ、人が集まる四万十駄場



会場案内図



2022.10.11 発行
特集 | No. 20

発行 | 四万十町役場企画課 文化的施設整備推進室
お問い合わせ先 | 0880-22-3124 担当 | 大河原・松下

四万十町の新しい文化的施設 (仮称)

昨年11月に着手した実施設計がまもなく完了する予定です。(10月中旬予定)

説明・意見交換会を開催します

主に設計や事業費に関する町民の皆さま向けの説明・意見交換会を開催します。

大正	日時	11月1日(火) 18:30～	主に設計や事業費についての説明と意見交換や質疑を行います。合わせて1時間半程度を予定しています。
	場所	地域交流センターたのの 第1会議室	
十和	日時	11月2日(水) 18:30～	
	場所	役場 十和地域振興局2階 ホール	
窪川	日時	11月4日(金) 18:30～	
	場所	役場 本庁(東庁舎)1階 多目的大ホール	

過疎地域持続的発展計画の変更に係る意見公募を実施します

本町では、「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」に基づく、「四万十町過疎地域持続的発展計画」を策定しています。このたび、文化的施設整備事業等の実施に伴い、計画に変更が生じるため、町民の皆さまからのご意見を募集します。詳しい内容については、10/11発送の区長文書【回覧「四万十町過疎地域持続的発展計画の変更に係る意見公募を実施します。」】をご覧ください。

予告！11/12(土)四万十駄場フェスを開催します

建設予定地に実寸大の図面を描きます。その上で、文化的施設がきたらどんなことができるか想像してみませんか？
詳しい内容については10/25発送の区長文書にてお知らせします。



総事業費について

総事業費の見込みが明らかになりましたので、お知らせいたします。



令和3年9月補正予算説明資料と比較して

総事業費*
22億1320万円

【注】令和4年8月25日現在の見込額

令和3年9月補正予算説明資料と比較して

6億1889万円の増(約1.39倍) となっています。

*総事業費とは…H29～R6年度の事業費の総額です。建物の建築工事だけでなく、これまでに支出した各種計画策定や設計、用地購入や各種申請手続等に要する費用も含まれます。

総事業費の主な増額要因

「資材単価等の高騰」や「資材の確保が困難なこと(=資材の変更や工期の増)」に伴う影響であり、やむを得ない増額要因と判断しています。



建築工事費の今後の見込み

資材単価等が日々高騰しており、人件費の引き上げも見込まれるなど、先行きは依然として不透明な状況にあります。このため、これらを見据えた予算措置や財源計画が必要となります。

今後の方向性について

行政と議会・町民の皆さまそれぞれが考える選択肢として、主に①設計の見直し等は行わずに予算計上(実施)②総事業費の圧縮③事業の一時休止の3つが考えられます。しかしながら、文化的施設の整備は現図書館や美術館が抱える様々な課題等の解決を目的に始まった事業であるため、「町民の皆さまの機会損失」等につながらないように、皆さまのご意見等もいただきながら、予算の計上時期等も含め、慎重に判断していく必要があります。

財源は？

主な財源として「合併特例債」と「過疎対策事業債」という2つの地方債(借金)を活用することとしています。この2つの地方債は、返済するお金の70%が「地方交付税(交付金)」として国から措置されるため、町が返済する実質的なお金は30%となります。つまり、総事業費としては、6億1889万円の増額となりますが、町の実質的な負担としては、**2億2283万円の増(計8億4778万円)**となっています。

なお、中・長期的な財政計画(今後の財政見通し)について、シミュレーションした結果、大きな影響はない(財政運営上問題ない)ものと判断しています。

維持管理費(ランニングコスト)
年間 8096万円

【注】令和4年8月25日現在の見込額

光熱費の値上げ見込み等に伴い、全体的な見直しを行った結果、令和3年9月補正予算説明資料と比較して

150万円の増 となっています。